



会員のページ

藻場のビデオ紹介と頒布のお知らせ
「磯やけ」って何? ~長崎県野母崎町を訪ねて

地球温暖化, 二酸化炭素削減問題が世界的に議論されている20世紀末の今年, 海藻の立場からその問題を広く考えてもらえる格好のビデオが制作された。「皆さんは磯やけという言葉をご存じですか?」藻類学会会員であれば誰もがYESと答えるであろう問いかけで始まるこのビデオは, タイトルからもわかるように研究者向けというよりは, 「磯やけ」問題を啓蒙するものである。

長崎県沿岸でのクロメ等の立ち枯れ被害に関して藻食魚類の関与の可能性を探ってきた関係者の地道な研究と環境庁依頼の緊急調査により, 従来原因が特定しにくかったクロメ等の立ち枯れが藻食性魚類による食圧によることを初めて確認した映像記録である。

製作の中心は, 新井章吾 ((株) 海藻研究所), 吉村拓 (水産庁西海区水研), 清本節夫 (同), 寺脇利信 (瀬戸内海区水研) の各氏である。1999年8-12月に撮影されている。舞台は長崎市の南方約30kmに位置する長崎半島先端の野母崎町樺島沿岸。1年前までクロメの海中林が生い茂っていた水深10mの海底である。ここではクロメの基部ばかりが墓標のように立っている。さらにバリカンで刈られたように短くなったマメタワラ, 海底を我が物顔に動き回るラッパウニ, ガンガゼなど暖海性動物, 海藻に覆い被さるようにつつサンゴなど, 今まさに日本の海で実際に起こっている藻場消失現場と, 長崎県総合水試での屋内水槽でのブダイの摂食行動, 実験的でクロメやマメタワラがブダイやアイゴにより食い尽くされる過程などが紹介されている。比較としてキタムラサキウニに食い荒らされ真っ白な海底と化した北海道小樽市忍路湾の「磯やけ」映像も紹介されている。

ビデオで新井氏は, 藻食性魚類の大繁殖の原因は気温上昇による水温上昇であると明言している。日本気象協会による今世紀初頭の30年と最近30年の水温比較によれば, 南日本一帯で冬の水温が2℃高く, 奄美大島や鹿児島南の冬の水温に相当する。このため南方に多い藻食魚が来て繁殖する。すなわち「藻食魚が増えると藻場が減る」という海洋生態系における魚類と

藻類の被食関係にはじめてスポットが当てられた。新井氏はいう。『陸で言えばシカが草や木をすべて食べつくして枯らしてしまうという状況が, 海の中でも現実起こっている。1ヶ月ほどの短期間に大規模な藻場が消失する原因は, 異常発生したアイゴによるものである。陸の場合温暖化したと言っても植物の種類が変わったりというのは報告されていない。それに対して海の中では1~2℃の差が分布の制限要因になっており, 温暖化による生物相の変化, 既存の生態系の破壊が, 海の中ではすでに起こっている。この認識に立って早急に海の温暖化を阻止するような方策を今から国際的に協議していく必要がある』。長崎でも潮間帯の海藻は特にここ1, 2年生育の減少が顕著であることを実感していた筆者にとって特に印象深いコメントであった。

ビデオでは北海道水試が取りくんでいるキタムラサキウニの摂餌調節によってコンブ類を繁殖させる方法を紹介している。今後長崎でも非食用のブダイ・アイゴを積極的に利用することで, 変化する環境に対する対応を考えて行くべきだと寺脇氏は主張する。

藻類学会会員のみならず磯やけや藻場造成にかかわる研究機関・企業などの藻類研究者, 海洋生物学・海洋土木工学関係者, 地球環境問題研究者, 環境教育関係者に是非お手元においていただきたい。

また, 瀬戸内海区水産研究所が中心となって広島湾の砂地海底でおこなった, 種組成の多様なガラモ場の植生を回復に関する現地試験の記録「豊かな暮らしのために~自然の藻場にならう階段藻礁」も同時に頒布する。

1. 「磯やけって何? ~長崎県野母崎町を訪ねて」
(20分・VHS) 2500円+税
2. 「豊かな暮らしのために~自然の藻場にならう階段藻礁」
(23分・VHS) 2500円+税

ビデオ入手方法

申込 (FAXに限る): FAX 03-5202-6066 「毎日 EVR システム内 藻類絵はがきの会ビデオ係」
申込記入事項: 希望ビデオのタイトルと本数・氏名 (振込者名)・住所・電話番号・FAX番号
料金 (税・送料700円込): 1本 3,360円, 2本 5,985円
振込先: 三和銀行東京営業部 当座預金口座 005902 (株) 毎日イーヴィアール・システム
振込手数料は申込者の負担とさせていただきます, 振込確認次第ビデオを発送します
問合せ: 毎日 EVR システム 佐藤建男 Tel 03-5202-6060
(飯間雅文 長崎大学環境科学部)